

木之本町における 希少淡水貝類の 保全活動

主任学芸員（底生動物学）
松田 征也



滋賀県北部の木之本町には、余呉川の水を利用した水田が広がり、水田を縫うように地堀の水路網が発達していました。これだけでは、普通の田園風景の中の水路ですが、調べると全国的に減少している、淡水棲二枚貝（イシガイ類）が多数生息していたのです。

ところが、この地域で圃場整備が実施されるようになり、年々貝たちがすめる環境がなくなりました。「貴重な貝を残したい！」行政関係者に話したところ、地域の方々、町や県の関係者、大学の研究者が集まり、対応を協議する場が



設けられました。

そして議論の末に貝たちを守ることで意見が一致しました。圃場整備の計画はすでにできていたので変更はできませんでしたが、貝たちを別の水路に移す大移動作戦が、地域住民のみならずが参加して開催されたり、移動した貝の生息状況を確認する観察会「田んぼの学校」が毎年開催されるなど、地域と行政、そして研究者が協力しての活動が実施されています。

こうした活動の成果は、博物館で開催された水族トピック展「レッドリストの魚たち」で展示紹介され、滋賀県のレッドデータブック『滋賀県で大切にすべき野生生物 2000年版』や、環境省が2002年に作成した「日本の重要湿地500」などにも反映されています。



旅行の会の調査旅行「たんさいぼうの小さな旅」で訪れた八雲ヶ原湿原にて

藻の殻は白黒テレビの世界、魅力がないとからかわれたのですが、確かに万華鏡のように派手さはないけれど、地球上にこんな造形美がと思わせる複雑で

この美しく楽しい珪藻の世界に、昔の工学的な経験を生かして複雑な形

指して頑張るのみです。

第二のお勤めも終わり、さてこれから長寿時代の第三の人生、と悩んでいるときに始めたフィールドレポーター。あつという間に足掛け7年です。飼育観察3年目のカマキ

リ幼虫を熱中死させたお暇つぶしにと顕微鏡で覗いた珪藻の姿と大塚学芸員の面白い（失礼？）人柄に魅せられて珪藻の世界にどっぷりです。先日お茶の雑談で、珪

藻の殻は白黒テレビの世界、魅力がないとからかわれたのですが、確かに万華鏡のように派手さはないけれど、地球上にこんな造形美がと思わせる複雑で

指して頑張るのみです。

はしかけ・たんさいぼうの会 有田重彦

こんにちは！ 展示交流員です。



私たちは、琵琶湖博物館の案内だけでなく、展示を通してみなさんと交流し、みなさんに身近な自然や生活へ目を向けていただく『かけはし』となっています。どうぞお気軽にお声をかけてください。

琵琶湖博物館の「ディスカバリー・ルーム」は、この展示室を訪れる子どもたちがいろいろなものを見つめる、おもちゃ箱のような空間です。今回は、楽しいコーナーのいくつかを交流員さんが案内してくれま

にんぎょうげきじょう



ヨシ莖きの小さな小屋は「にんぎょうげきじょう」です。今日の出し物は何でしょうか？

今日は人形劇「三匹のなまず」です。アオコとナマズのやりとりをとおして、琵琶湖の環境を考えるきっかけができればと思っています。

アオコの人形は迫力がありすぎて誤解を受けるので、劇が終わったあとで本当の姿を説明しています。

「いろいろ」のある「おばあちゃんの台所」も楽しそうです。

おばあちゃんの台所



子どもたちにとっては、ホームドラマのセットのように感じられるのでしょうか。それぞれの役にすっかりなりきって演じています。

でも集合時間がきたとたん、それまで標準語で演じていた小学生が、急に関西弁に戻る姿は見ていても面白いです。

太鼓の音が聞こえてくるのは「音の部屋」かな？

そうです、この部屋の中では世界の民俗楽器にさわることが出来ます。さまざまな楽器にさわって、自由に音を出しながら、音の出る仕組みについて考えることができるのですよ。

先日小さなお子さんが太鼓をたたき姿がサマになっていたの、ご家族に尋ねてみるとなんと大津祭の曳山で囃子をやっているご一家でした。

音の部屋

